

Hokkaido University News

# 北大時報

平成26年

# 2

No. 719 February 2014

## 本学職員表彰を実施 北海道大学一般入試の志願状況

お知らせ

・過半数代表候補者の決定



1 大学における資金運用について

■ 全学ニュース

- 2 本学職員表彰を実施
- 2 AO入試合格者の発表
- 3 北海道大学一般入試の志願状況
- 4 「北大生をグローバルに活躍する気にさせるセミナー」を開催
- 5 第9回北海道大学・九州大学合同活動報告会を開催
- 6 「若手人材育成シンポジウム “シンフォスター 2014”」の開催
- 7 第32回創成科学サロン「2014年 初夢を語る」を開催
- 8 北ユーラシア研究会の発足を開催
- 9 北海道大学総長奨励金受給留学生報告会を実施
- 10 企業研究セミナーを開催
- 11 北大フロンティア基金

■ 部局ニュース

- 12 地球環境科学研究院が「省エネ大賞」を受賞
- 12 北海道大学病院医員棟が完成
- 13 触媒化学研究センター第10回・第11回情報発信型国際シンポジウムを開催
- 15 「平成25年度北海道大学工学系産業技術フォーラム」を開催
- 15 工学部で第2回心のケアに関する講習会を開催
- 16 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
- 16 附属図書館「海外出張報告会」を開催
- 17 小学生が真冬の森の遊びを満喫！  
— 雨龍研究林で「森のたんけん隊2014冬」を開催



若手人材育成シンポジウム “シンフォスター 2014”



企業研究セミナー

■ お知らせ

- 18 過半数代表候補者の決定

■ 同窓会との交流

- 19 恵迪寮同窓会「新年寮唱歌始めの会」

■ 諸会議の開催状況

20

■ 学内規程

21

■ 研修

- 22 平成25年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

■ 表敬訪問

- 23 国内
- 23 海外

■ 人事

24

- 25 新任教授紹介

■ 訃報

- 26 名誉教授 伊藤 英治 氏
- 26 名誉教授 山田 尚達 氏
- 27 名誉教授 山田 定市 氏
- 27 名誉教授 實方 謙二 氏
- 28 名誉教授 渡辺 勝也 氏



地球環境科学研究院が「省エネ大賞」を受賞



触媒化学研究センター  
第10回情報発信型国際シンポジウム



森のたんけん隊2014冬



北海道大学病院医員棟が完成

# 大学における資金運用について

理事 山 賢一  
い や ま けんいち



本学の研究・教育の水準を維持するためには、ますます「資金運用」の重要性が増していると言えます。とはいえ、空前の低金利の中では利息収入を増やすことは大変困難な状況です。今回は、普段あまり話題に上ることのないこのような点をご紹介します。皆さんに「資金運用」のあり方についてご理解いただければと思います。

## 海外の大学の資金運用は？

5年ほど前の新聞記事にこのような話題がありました。

「米国の調査によると、ハーバード大学の3.8兆円、エール大学の2.5兆円、スタンフォード大学の1.9兆円など、資産運用のために単独で1兆円以上の基金を持つ大学が6校もあった。金融工学を駆使し、金融派生商品やヘッジファンドなどにも投資して、それぞれ年18～28%の投資収益を上げていた。」

基金の高額さ、ハイリスク・ハイリターンへの運用、さらには多様な保有資産内容から運用スタッフの数に驚きましたが、米国の大学における資金運用のスタートが300年前であることを知り、あるいは大学自体が寄附で建学された経緯を知るにつけ、納得するところもありました。

他方日本では、大手私立大学になると1,000億円前後の金融資産を保有していますが、これも、これらの大学の100年を超える歴史や建学の状況を見ると納得できるものです。この期間、これら大手私立大学は、卒業生の結束を固めつつ寄附金を集めることに力を入れてきています。資金運用は、まず寄附集めから始まるということでしょう。

国立大学はどうでしょうか。本学も140年近い歴史がありますが、常に国家予算の中で研究・教育費が賄われてきたこともあり、先生方の研究資金は別として、大学としての寄附集めは創基として行われる事業の一時的なものであり、また資金運用にもさほど関心は払われませんでした。

こうして米国、日本の私立大学に比べてみると、建学の時から始まる寄附金集めの歴史の差が国立大学の資金運用にも現れていることがわかります。

もっとも、状況は変わりつつあります。本学の「北大フロンティア基金」は50億円を目指して平成18年10月にスタートし、8年目には累計28億円を超えて、新渡戸カレッジ生への支援も始めました。「千里の道も一歩から」。今は折り返しといったところでしょうか、今後も着実に歩み続けたいと思います。

## 運用方法は？

集まった基金をどのように運用するかについても簡単に触れておきます。

本学には、「北大フロンティア基金」以外にも国からの運営費交付金、競争的資金、先生方の奨学金など多様な資金が入ってきますが、大学に入金されてから資金執行まで当然タイムラグがあります。

そこで、資金の出入りを正確に把握・予測し、支出までの資金滞留を見極めるのが第一に重要となり、次に預金から国債など金融資産の中から何を選択しどのくらいの期間運用するかが重要になります。最後に銀行、証券会社に運用条件を提案し入札を行う手順です。

平成16年4月の国立大学法人化後、本学においては、1年以内の短期、1年超の長期に分けて資金運用を行っており、平成24年度の延べ運用額は1,237億円（1回の運用額×運用回数）、平成24年度末の保有金融資産は219億円です。利息収入は5,900万円ですが、ピーク時の平成20年度の運用収益が2億円ですので、今はその3割程度という状況です。

## これからの展開

法人化後、資産運用体制の整備・規定の制定などを進めながら実務の幅を広げてきましたが、現下の低金利だけは妙策がありません。少し金利の高い長期の国債を購入して当面の利息収入を確保するのか、あるいはいずれ景気上昇に伴って着実に上がるであろう金利に備え短期の金融資産を購入するのか判断が必要です。大学の研究・教育の水準を維持するために、このような努力がなされています。

もっとも、原点を忘れてはいけません。利息収入も大事ですが、米国の大学や国内の私立大学の資金集めの苦労や多様さを参考にしつつ、卒業生を中心とした関係の方々にはまず大学の現状をお知らせし、関心を持っていただくことが重要かと考えています。そして、そうした関心を本学への寄附に繋げていくという、迂遠な様ではありますが確かな道を歩み、「北大フロンティア基金」のさらなる積み増しを図ることが、今後の本学の研究と教育を守っていくためにも大事かと思っている次第です。

## ■全学ニュース

### 本学職員表彰を実施



被表彰者と山口総長ほか列席者

2月12日（水）、総長室において「北海道大学職員表彰」表彰式を行い、関係者列席のもと、山口佳三総長から被表彰者に、賞状及びメダルが授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において職員の模範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

このたび表彰された方々は、永年にわたり計算機の運営に精励され、本学の教育研究支援に多大な貢献をされるとともに、情報処理学会北海道支部発足当初から運営に携わり、大きな貢献をされた工学研究院嘱託職員 斉藤清氏、並びに永年にわたり健康診断実施・証明書発行システムの開発、保守、管理に精励し、本学の教育研究支援に多大な貢献をされた保健センター嘱託職員 小西 剛氏のお二人です。

（総務企画部人事課厚生労務室）

## AO入試合格者の発表

平成26年度AO入試のうち、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表を2月10日（月）に行い、9名が合格しました。

昨年12月3日（火）に合格者発表が行われた理学部、歯学部及び水産学部と合わせ、合格者数は43名となりました。

（学務部入試課）

### 平成26年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数	
理学部	物理学科	5	9 (5)	1.8	3 (1)	
	化学科	8	21 (6)	2.6	8 (2)	
	地球惑星科学科	5	13 (3)	2.6	5 (0)	
医学部	医学科	5	7 (2)	1.4	0 (0)	
	保健学科	看護学専攻	7	21 (16)	3.0	6 (6)
		作業療法学専攻	4	6 (4)	1.5	3 (2)
歯学部		5	11 (4)	2.2	5 (2)	
工学部応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)		4	3 (1)	0.8	0 (0)	
水産学部		20	35 (6)	1.8	13 (1)	
計		63	126 (47)	2.0	43 (14)	

※（ ）内は、道内高校出身者で内数

# 北海道大学一般入試の志願状況

平成26年度の本学一般入試の志願者は、前期日程5,815名、後期日程4,324名、合計10,139名となり、昨年度と比較すると305名減少し、倍率は4.2倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日（火）・26日（水）、後期日程が3月12日（水）となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

(学務部入試課)

## 平成26年度北海道大学一般入試志願者数

### 一般入試

日程	学部・学科等	募集人員	志願者数	倍率	第一段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度倍率			
前期日程	総合入試	文系	100	394	3.9	4.0	455	4.6		
		理系	数学重点選抜群	130	386	3.0	4.0	482	3.7	
			物理重点選抜群	235	666	2.8	4.0	775	3.3	
			化学重点選抜群	235	813	3.5	4.0	680	2.9	
			生物重点選抜群	177	496	2.8	4.0	547	3.1	
			総合科学選抜群	250	703	2.8	4.0	703	2.8	
			計	1,027	3,064	3.0		3,187	3.1	
	学部別入試	文学部	118	316	2.7	4.0	385	3.3		
		教育学部	20	51	2.6	4.0	64	3.2		
		法学部	140	340	2.4	4.0	267	1.9		
		経済学部	140	310	2.2	4.0	362	2.6		
		医学科	医学科	97	337	3.5	3.5	346	3.6	
			保健学科	看護学専攻	60	138	2.3	5.0	155	2.6
				放射線技術科学専攻	28	87	3.1	5.0	85	3.0
				検査技術科学専攻	28	106	3.8	5.0	98	3.5
				理学療法学専攻	13	51	3.9	5.0	35	2.7
				作業療法学専攻	13	33	2.5	5.0	54	4.2
小計	142	415	2.9		427	3.0				
計	239	752	3.1		773	3.2				
歯学部	30	92	3.1	6.0	202	6.7				
獣医学部	20	116	5.8	6.0	105	5.3				
水産学部	105	380	3.6	4.0	330	3.1				
合計		1,939	5,815	3.0		6,130	3.2			
後期日程	文学部	37	298	8.1	6.0	286	7.7			
	教育学部	10	77	7.7	10.0	124	12.4			
	法学部	40	340	8.5	6.0	274	6.9			
	経済学部	20	126	6.3	10.0	151	7.6			
	理学部	数学科	13	94	7.2	6.0	130	10.0		
		物理学科	5	126	25.2	6.0	108	21.6		
		化学科	15	162	10.8	6.0	151	10.1		
		生物科学科 生物学専修分野	10	118	11.8	6.0	104	10.4		
		生物科学科 高分子機能学専修分野	5	52	10.4	6.0	78	15.6		
		地球惑星科学科	5	71	14.2	6.0	61	12.2		
		計	53	623	11.8		632	11.9		
	医学部	保健学科	放射線技術科学専攻	7	89	12.7	6.0	49	7.0	
			検査技術科学専攻	7	102	14.6	6.0	65	9.3	
			理学療法学専攻	4	40	10.0	6.0	32	8.0	
	計	18	231	12.8		146	8.1			
	歯学部	8	95	11.9	6.0	192	24.0			
	薬学部	24	280	11.7	6.0	298	12.4			
	工学部	応用理工系学科	34	366	10.8		331	9.7		
		情報エレクトロニクス学科	38	288	7.6		278	7.3		
		機械知能工学科	30	241	8.0		321	10.7		
		環境社会工学科	53	334	6.3		386	7.3		
		計	155	1,229	7.9		1,316	8.5		
	農学部	53	539	10.2	6.0	425	8.0			
獣医学部	15	127	8.5	6.0	109	7.3				
水産学部	50	359	7.2	6.0	361	7.2				
合計		483	4,324	9.0		4,314	8.9			
総計		2,422	10,139	4.2		10,444	4.3			

## 「北大生をグローバルに活躍する気にさせるセミナー」を開催



根本所長に質問する高校生



講演する国連広報センター 根本所長

1月16日(木)と20日(月)、国際本部では「北大生をグローバルに活躍する気にさせるセミナー」を開催しました。このセミナーは、様々な分野において海外で活躍されている方を講師としてお迎えして、現在の業務経験に加えて、その方の学生時代から今日に至るまでのキャリア形成についてもお話いただくことで、参加者に海外で活躍することに関心を持ってもらうための機会を提供するものです。

1月16日(木)には、日本航空(JAL)の協力を得て、国際線の客室乗務員の経験のある野澤麻由美氏を講師としてお迎えしました。昨年の流行語大賞にも選ばれた「おもてなし」をテーマとして、本学学生や高校生、一般の方も含む80名以上の参加者を対象に、笑顔、アイコンタクト、姿勢などの基本動作を学んだり、クイズや参加者同士で自己紹介を練習したりするなど参加型形

式で行われました。参加者からは、「JALのスタイルは日本のおもてなしを実現している」、「『大変=大きく変わるとき』という説明が印象に残った」、「JALのおもてなし、しつらえについてよく理解できた」といった感想があり、大変好評でした。

1月20日(月)は、東京にある国際連合広報センターの根本かおる所長を講師としてお迎えし、幼少期のドイツでの体験や、アナウンサーを経て国際機関で活躍するに至るまでの経験について講演していただきました。本学学生に加えて、高校生や社会人も含めて120名近くが参加しました。参加者からは、「国連で働く具体的な道筋が理解できた」、「国連が女性にとって働きやすい職場だと分かった」、「好奇心や思いの強さが行動の強さに表れることを学んだ」、「北海道で国連に勤めている方の話を直接聞けるのは貴重」と

いった感想があり、講演時間を過ぎても、根本所長に直接話を聞きたいという学生が多数会場に残っているほどでした。

また、根本所長は、講演の前には、国連の寄託図書館でもある本学の附属図書館を訪問され、館内の国際資料や開催中のパネル展示「UNHCRを知っていますか?」を熱心に見学されました。

国際本部では、来年度も、様々な分野でグローバルに活躍されている方々を講師としてお招きし、業務内容だけでなく、講師の方のキャリア形成などについて講演していただくことで、学生が海外に羽ばたこうとする意欲を高めることに取り組んでいきます。

(国際本部国際支援課)



学生からの質問に答える野澤氏



互いに自己紹介する参加者

## 第9回北海道大学・九州大学合同活動報告会を開催



パネルディスカッションの様子

北海道大学と九州大学は、両大学主催による「北海道大学・九州大学合同活動報告会」を2月1日（土）に東京都千代田区の都市センターホテルで開催し、一般参加者及び両大学OB・OGを含め約160名の参加がありました。

この報告会は、日本の北と南に位置し、先端的な教育研究活動を展開している両大学の活動を広く社会に理解していただくことを目的として毎年開催しているもので、9回目となる今回は、「大学の国際化」と題して、両大学の国際化に関する先進的な教育研究活動を紹介しました。

報告会は、本学山口佳三総長及び九州大学有川節夫総長による挨拶・大学紹介で始まり、続いて吉田大輔文部科学省高等教育局長よりご挨拶をいただきました。

引き続き、本学の川端和重理事・副

学長及び九州大学の藤木幸夫理事から、それぞれ研究活動を中心とした取組が報告された後、教員4名（本学・杉浦秀一教授、九州大学・緒方一夫教授、本学・波多野隆介教授、九州大学・原田 明教授）による発表が行われました。

報告会の最後には、本学の難波美帆特任准教授をコーディネーター、先に発表を行った4名をパネリストとして「大学の国際化」と題したパネルディスカッションが行われました。参加者からは様々な質問が寄せられ、講演者との間で活発な質疑応答が行われました。

報告会終了後は、交流会を開催し、両大学の盛んな交流を図りました。

（研究推進部研究振興企画課）



挨拶をする山口総長



活動報告をする川端理事・副学長



講演中の杉浦教授



質問に答える波多野教授

# 「若手人材育成シンポジウム “シンフォスター 2014”」の開催

1月30日（木）、学术交流会館において「若手人材育成シンポジウム “シンフォスター2014”」を開催しました。

本シンポジウムは、本学において実施している人材育成の取り組みを集めて、それらの事業実施者間の更なる理解と連携を深め、併せて学内外に対して本学の人材育成活動をアピールすることを目的としています。平成20年度から継続して開催し、今年度で6回目の開催となりました。

今回のシンポジウムでは、「産学連携と高度人材育成」というテーマのもと、山口佳三総長からの冒頭挨拶の後、第1部では文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長の松尾泰樹氏より「我が国における博士人材に対するキャリアパス多様化政策の展開」、続

いて特定非営利活動法人産学連携推進機構理事長の妹尾堅一郎氏より「イノベーション人材の育成、人材育成のイノベーション～皆と同じことが言えるか、他人と違うことが言えるか～」と題して基調講演がありました。

第2部では文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「北大バイオニア人材協働育成システムの構築」の総括として、インターンシップ参加者からの体験報告やパネルディスカッションが行われました。

また、第3部では本学の魅力ある大学教育の取り組みとして、獣医学研究科より、博士課程教育リーディングプログラム「One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」の紹介がありました。

最後の第4部では本学で実施している人材育成事業関連のポスターセッションが、交流会も兼ねて行われ、延べ34事業36枚のショートトーク発表をはじめ、参加者間で活発な意見交換や情報共有が行われました。

今回のシンポジウム全体では、延べ20機関30名の学外参加者を含めた130名の参加があり、大盛況のうちに終了し、本学独自の一貫した人材育成システムの構築に大きく寄与するものとなりました。今回のシンポジウム開催に当たり、ご配慮・ご協力くださいました皆様に、改めてお礼申し上げます。

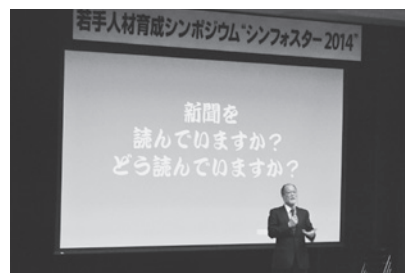
(人材育成本部)



山口総長の冒頭挨拶



文部科学省 松尾課長の講演



産学連携推進機構 妹尾理事長の講演



博士インターンシップパネルディスカッションの様子



獣医学研究科リーディングプログラム紹介



ポスターセッションの様子



## 第32回創成科学サロン「2014年 初夢を語る」を開催



会場の様子

創成研究機構では、1月21日(火)、創成科学研究棟1階レストランポプラにおいて、北キャンパスの機関同士の交流を主な目的として、第32回創成科学サロン並びに北キャンパス合同新年会を開催しました。

今回のサロンでは、「2014年 初夢を語る」をテーマに、本学、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、公益財団法人北海道科学技術総合振興セン

ター（ノーステック財団）、独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部（北大ビジネス・スプリング）の各機関の代表が今年の抱負・今後の構想等について語りました。

川端和重理事・副学長（創成研究機構長）による「啐啄同時！（そくたつどうじ）」、北海道立総合研究機構の下小路英男理事による「風景を変えてみたい」、ノーステック財団の常俊 優

専務理事による「幸せについて」、中小企業基盤整備機構北海道本部の大澤恒一審議役による「北大ビジネス・スプリングでJe・Je・Je！」と題した講演が行われました。

引き続き開催された新年会には延べ84名が参加し、学内外の関係者同士が親睦を深める機会となりました。

（創成研究機構）



川端理事・副学長による講演



北海道立総合研究機構 下小路理事による講演



ノーステック財団 常俊専務理事による講演



中小企業基盤整備機構北海道本部 大澤審議役による講演

## 北ユーラシア研究会の発足会を開催

1月30日(木)、学术交流会館において、ロシアとその周辺地域について研究を行う学内の研究者が集まり、情報交換ネットワークの発足会を開催しました。サステナビリティ・ウィーク2013の行事として開催した、日ロ学術シンポジウムの実行委員会メンバーの提案により、部局を越えた横の連携を促進することを目的とした研究者間の情報交換ネットワークの設立を目指したものです。

発足会に先立ち、北ユーラシアにおける研究活動の情報交換会が行われました。文部科学省研究大学強化促進事業の一環として行われている国際共同研究の立ち上げに関するフィージビリティ・スタディ(予備調査)の企画が5部局から発表されたほか、これまで長年にわたり北ユーラシアにおいて研究を行ってきた5部局6名の研究者からそれぞれの研究に関する紹介が行われ、改めて本学で行われてきた研究の層の厚さと歴史を実感することができ

ました。

引き続き行われた発足会では、研究会の名称や活動目的及び内容についての合意が得られ、会長としてスラブ研究センターの田畑伸一郎教授が、副会長として地球環境科学研究院の杉本敦子教授と低温科学研究所の江淵直人教授が、それぞれ選出されました。

今回の情報交換会と発足会には、学内11部局から31名の研究者と研究支援者が集まりました。今後は、メーリングリスト等を利用して北ユーラシア研究会の活動を活発化させると共に、フィージビリティ・スタディの成果を共有し、異分野間連携研究を立ち上げるためのワークショップの開催を予定しています。本研究会については、担当者までお問い合わせください。

◆担当者連絡先：創成研究機構URA  
ステーション 田中晋吾  
n\_eurasia@yahoo.co.jp

(創成研究機構)



工学研究院 瀬戸口剛教授による発表



会場の様子

## 北海道大学総長奨励金受給留学生報告会を実施



報告する留学生

1月27日（月）、国際本部大会議室において北海道大学総長奨励金受給留学生報告会を開催しました。

北海道大学総長奨励金は、本学大学院に優秀な私費外国人留学生を受け入れるため、本学の国際交流協定校の学生及び卒業生のうち、学業成績が極めて優秀で、かつ、本学の教育研究等及び日本文化等に大きな関心を持つ者に対し奨学金を給付する制度です。平成18年度から受入れを開始しており、現在は13名の留学生が受給しています。

この報告会は、国際本部が奨学金給付後のフォローアップとして実施する

もので、留学生とその指導教員等が出席しました。今回発表したのは昨年10月に入学した5名を含む13名です。

報告会は、上田一郎国際本部長からの学生への激励の言葉に始まり、その後留学生から本学での研究の進捗状況や北海道での生活についての報告、質疑応答が行われました。出席者からの質問に、学生は真摯に答えていました。各々の報告時間は短かったものの、留学生たちがそれぞれの研究分野で先端的・独創的な研究を行っており、成果も十分に上がっていることをうかがい知ることができました。

難易度が高いテーマにチャレンジしている学生や、フィールドワークに積極的に参加している学生、また、学会や学業外の活動等に熱心に取り組んでいる学生など、勉強だけでなくその他の課外活動にも熱心に励んでいる様子が報告されました。流暢な日本語で発表する学生も多く、指導教員や研究室のメンバーに親しみ、充実した学生生活を送っている様子が生き生きと伝わってきました。

（国際本部国際支援課）



報告会の様子



上田国際本部長の挨拶

## 企業研究セミナーを開催



説明会で企業の説明を熱心に聞く学生

キャリアセンターでは、平成25年12月1日（日）～20日（金）及び平成26年1月6日（月）～16日（木）のうち24日間にわたり、「平成25年度北海道大学企業研究セミナー」を、クラーク会館において開催しました。（共催：北海道大学連合同窓会）

本セミナーは、就職活動を行う学生の地理的ハンディキャップを軽減し、学生が主体的に業界・企業研究を行い、「就職活動へ向けての礎をつくる」ことができるよう、平成16年度から毎年度開催している全国最大規模の就職活動支援イベントです。

本年度は627社（昨年度：495社）の参加を得て、延べ36,387名（昨年度：35,652名）の学生が、企業の人事・採用担当者からの企業や業界に係る説明に熱心に耳を傾け、積極的に質問等を行っていました。

また、留学生の採用を予定している企業による「留学生相談コーナー」には、124社が参加し、延べ354名の留学生が利用しました。

企業による説明終了後の夕方には、企業の人事・採用担当者と学生との交流の場として「情報交換会」を毎日開

催し、260社の担当者と延べ1,562名の学生が交流を深めました。1月7日（火）には、山口佳三総長、新田孝彦理事・副学長が情報交換会に参加し、企業の担当者と学生の輪に加わって、打ち解けた雰囲気の中で懇談しました。

このほか、セミナー期間中に、特別企画として「公開模擬面接会」及び「外国人留学生就職セミナー」を開催しました。「公開模擬面接会」では、多くの学生の視線が注がれる中、実践さながらの形式で面接が行われ、面接を受けた学生及び見学した学生は、面接における留意点や課題を認識することができました。また、「外国人留学生就職セミナー」では、日本の企業で活躍している本学出身の先輩留学生から、就職活動での苦労話や仕事内容など様々な経験談についての講話があり、日本企業への就職を希望する留学生には、今後の就職活動に役立つ大変貴重な機会となりました。

本セミナーは、各企業及び諸団体等の協力を得て開催しています。関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

（学務部キャリアセンター）



企業の人事・採用担当者に質問する学生



情報交換会で挨拶をする山口総長



特別企画「公開模擬面接会」で面接を受ける学生



特別企画「外国人留学生就職セミナー」で先輩の話を聞く留学生

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	15,280件	2,805,406,093円
基金累計額（1月31日現在）	教職員の寄附率	32.1%（1,241件／3,861人）

## 1月のご寄附状況

法人等1社、個人59名の方々から1,483,500円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

北大歯学部同窓会関西支部

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	池田 慎	石戸谷昌洋	井上 良紀	今井 英幸	入澤 秀次	上田 敦	大城 武久
奥山 悦男	小内 透	小原 大和	埴山 雅秀	片山 明石	金川 眞行	川勝 賢由	河本 充司
北 裕幸	齋藤 彰	齊藤 久	佐渡 義一	杉村 興作	瀬名波栄潤	高橋 光彦	高橋 庸夫
丹野千枝美	土家 琢磨	土屋 由樹	寺澤 睦	豊田 威信	中川 優	中村 英二	深澤 良彦
福井 孝志	山内 隆嗣	山口千世子	山崎 賢司	吉田 広志			

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

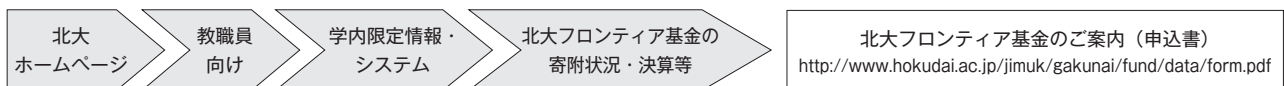
（法人等）

北大歯学部同窓会関西支部

### ご寄附のお申し込み方法

#### ①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



#### ②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

#### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

## ■ 部局ニュース

# 地球環境科学研究院が「省エネ大賞」を受賞

地球環境科学研究院が、平成25年度「省エネ大賞」（主催：一般財団法人省エネルギーセンター、後援：経済産業省）の省エネ事例部門において省エネルギーセンター会長賞を受賞し、1月29日（水）に東京都内で表彰式が行われました。受賞テーマは、「寒冷地の実験系大学院の節電」です。

同賞は、国内の産業・業務・運輸部門に属する企業、工場、事業場等の省エネルギーを推進している事業者及び省エネルギー性に優れた製品を開発した事業者の活動を発表大会で広く共有

すると共に、優れた取組を行っている事業者を表彰することにより、省エネルギー意識の浸透、省エネルギー製品の普及促進、省エネルギー産業の発展及び省エネルギー型社会の構築に寄与することを目的として実施されているものです。

受賞の対象となったのは、平成23年度から実施している「環境科学院『見える化』システムを活用する環境負荷低減実現プロジェクト」での取組で、その成果が認められ今回の受賞となりました。具体的には、「見える化」シ

ステムのデータを基に、学生と教職員が協働して省エネ・節電活動に取り組みました。各種設備の運用改善と自主的省エネ行動の促進により、平成24年度のピーク電力について、同22年度比で夏季は21%、冬季は14%の削減に成功しました。

これらの方策を本研究院外でも活用できるよう情報発信を行うと共に、環境教育の場における環境意識の向上と省エネ実践を継続する予定です。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



省エネルギーセンター会長から表彰状を授与される  
田中俊逸地球環境科学研究院副研究院長（右側）



表彰状を手に記念撮影  
（左から田中副研究院長、沖野龍文准教授）

## 北海道大学病院医員棟が完成

12月20日（金）、それまで北海道大学病院の病棟南側で建築工事が進められていた医員棟が無事竣工となり、1月14日（火）から使用を開始しました。医員棟は鉄筋3階建てで、ロッカース

ペースとスタディスペースを区分することにより、医員等が静穏な環境で研究することができるようになりました。

なお、医員等が研修医室及びロッカー室として従来使用していた管理棟

3階は、今後、臨床研究中核病院整備事業を推進するため、生体試料室の整備やCPCルームの拡充を行う予定です。

（北海道大学病院）



医員棟外観



スタディスペース

## 触媒化学研究センター第10回・第11回情報発信型 国際シンポジウムを開催

本国際シンポジウムは、文部科学省の共同利用・共同研究拠点の認定を受けている触媒化学研究センターが、拠点活動の一環として「日本が誇る先駆的研究成果を“日本の研究機関の主導で”海外において情報発信する」というコンセプトの下で企画し、平成17年度のアーヘン工科大学（ドイツ）、平成18年度のパデュー大学（アメリカ合衆国）、平成19年度のリヨン大学（フランス）、平成20年度のスウェーデン王立科学アカデミー（スウェーデン）、平成21年度のもスクワ大学（ロシア）、平成22年度の北京大学（中国）、平成23年度のヨーク大学（カナダ）、平成24年度のケルン大学（ドイツ）及びス

トラスブル大学（フランス）で行ってきたシンポジウムに続くものです。このたび、第10回を昨年10月25日（金）にプラハ・カレル大学（チェコ・プラハ）で、第11回を1月9日（木）・10日（金）エモリー大学（アメリカ・アトランタ）において、開催しました。

CRC International Symposiumは、平成23年度まで「クロスカップリング反応」を主なテーマとしてきましたが、2010年ノーベル化学賞を「溝呂木・ヘック反応」のリチャード・ヘック氏（米国デラウェア大学名誉教授）、「鈴木カップリング」の鈴木 章氏（北海道大学名誉教授、触媒化学研究センター特別招へい教授）及び「根岸カッ

プリング」の根岸英一氏（米国パデュー大学特別待遇教授、触媒化学研究センター特別招へい教授）の3氏が受賞したことからその重要性は世界的に明らかになり、区切りがついたため、平成24年度からは「有機合成触媒」と「触媒理論化学」の2つをテーマに年2回開催しているものです。なお、「触媒理論化学」の第1回目であったストラスブルでのシンポジウムに特別講演者として参加されたMartin Karplus氏は、その年12月にノーベル化学賞を受賞され、同じく招待講演者である諸熊奎治氏も同研究領域において重要な貢献をした研究者として、ノーベル委員会の報告書に名前が掲載されました。

### 10月25日 CRC International Symposium in Prague “Asymmetric C-C Bond Formation & Organometallics”（於：プラハ・カレル大学）

プラハのシンポジウムには、2010年ノーベル化学賞受賞者の根岸英一氏、この分野で先駆的な役割を果たしている日本人研究者3名に加え、地元チェ

コから2名、ドイツから1名、スイスから1名の研究者を講師として招待しました。



集合写真



オープニング



講演の様子

#### 講師一覧

##### 日本人研究者

シンガポール科学技術研究庁・材料研究・工学研究所（IMRE）教授 林 民生氏、  
微生物化学研究会微生物化学研究所化学系所長 柴崎正勝氏、シカゴ大学教授・中部大学研究推進機構長 山本 尚氏  
チェコ チェコ共和国科学アカデミー有機化学・生化学研究所 Prof. Ivo Starý, プラハ・カレル大学 Prof. Jana Roithová  
ドイツ アーヘン工科大学 Prof. Dieter Enders  
スイス バーゼル大学 Prof. Andreas Pfaltz

1月9・10日 CRC-EC Joint International Symposium on Chemical Theory for Complex Systems (於：エモリー大学)

アトランタのシンポジウムは、本学触媒化学研究センターとエモリー大学エマーソンセンターの共催により実施されました。

始めに、エモリー大学エマーソンセンター長 Jamal Musaev氏、本学触媒化学研究センター長 福岡 淳教授によるそれぞれの開催挨拶の後、エマーソンセンターアワード受賞セレモニーが行われ、先のノーベル化学賞を受賞したMartin Karplus氏等と並ぶ

重要な功績を挙げられた京都大学福井謙一記念研究センター 諸熊奎治シニアリサーチフェローが受賞されました。

引き続き、講演会が行われ、この分野で先駆的な役割を果たしている日本人研究者6名に加え、地元アメリカから9名、スウェーデンから1名の研究者が講師として招待され、講演しました。

また、直前に記録的な大寒波がアメリカを襲い、カナダからの招待講演者

Prof. Tom Ziegler (カルガリー大学) が出席することができなくなるなど、一時開催が危ぶまれましたが、その他の招待講演者及び本センターからのスタッフ等は事前に現地入りすることができ、無事に開催することができました。



集合写真



オープニング



講演の様子

講師一覧

日本人研究者

京都大学福井謙一記念研究センターシニアリサーチフェロー 諸熊奎治氏、量子化学研究協会研究所長 中辻 博氏、東京大学教授 高塚和夫氏、同 山下晃一氏、京都大学教授 林 重彦氏、本学准教授 中山 哲氏

アメリカ

カリフォルニア工科大学 Prof. William A. Goddard, III, カリフォルニア大学バークレー校 Prof. William H. Miller, ノースウェスタン大学 Prof. George C. Schatz, エモリー大学 Prof. Joel M. Bowman, 同 Prof. Francesco Evangelista, 同 Prof. James T. Kindt, ウィスコンシン大学 Prof. Qiang Cui, ジョージア工科大学 Prof. Rigoberto Hernandez, 同 Prof. C. David Sherrill

スウェーデン ストックホルム大学 Prof. Per E. M. Siegbahn

どちらのシンポジウムにもたくさんの参加者が集まり(プラハ180名、アトランタ117名)、熱心に講師の話に聞き入っていました。また、講演後の質疑応答時には多くの質問が寄せられ、盛況のうちに終了となりました。

第10回のシンポジウムには、本学から、触媒化学研究センター 高橋 保教授、宋 志毅助教、技術職員3名及び北キャンパス合同事務部事務職員1名が、第11回のシンポジウムには、触

媒化学研究センター 朝倉清高教授、長谷川淳也教授、中山 哲准教授、有賀寛子助教、技術職員3名及び北キャンパス合同事務部事務職員1名が参加し、会場となった大学のスタッフと共に運営にあたりました。

今回の2つのCRC International Symposiumの開催にあたり、プラハ・カレル大学及びエモリー大学の関係者の方々には、会場の手配・設営、シンポジウム開催の周知等、多大なるご尽

力をいただきました。誌上を借りて感謝申し上げます。

触媒化学研究拠点として認定を受けている触媒化学研究センターは、拠点への研究者コミュニティからの要請に応えるべく、今後も情報発信型シンポジウム等の活動を継続する予定です。

(触媒化学研究センター)



## 「平成25年度北海道大学工学系産業技術フォーラム」を開催

12月14日（土）・15日（日）の2日間にわたり、工学院・工学部主催及び情報科学研究科共催で「平成25年度北海道大学工学系産業技術フォーラム」を開催しました。

本フォーラムは、工学系の学生を対象としたキャリア支援の一環として、様々な産業分野における業務内容や求められる技術・専門性、技術者や研究者の仕事の内容について、産業界で活躍する方々の話を聞き、学生が業界や企業で働く技術者・研究者に対する理解を深め、進路を見据えた勉学意識を高めること及び主体的に企業・業界研究を進めるようになることを目的としています。今年度は、2日間で化学、機械、電気機器、運輸・情報通信、建

築、非鉄金属等、多岐にわたる業種から計112社の企業が参加しました。

当日は、参加企業による企業講演会及び交流会が行われました。企業講演会では、それぞれ自社の事業紹介や仕事内容等について講演していただきました。企業講演会終了後には、各参加企業の技術者・採用担当者と学生による交流会が行われました。

企業講演会には2日間で延べ1,119名の学生が参加し、熱心にメモを取りながら企業研究を行い、その後の交流会においては、各企業の担当者に活発に質問する学生の姿が多数見られました。

（工学院・工学研究院・工学部）



企業講演会で熱心に情報収集する参加学生



和やかな雰囲気での交流会

## 工学部で第2回心のケアに関する講習会を開催

工学部では、1月31日（金）17時30分からアカデミックラウンジ3において、工学系部局なんでも相談室カウンセラーの石原一人先生による「第2回心のケアに関する講習会」を開催しました。

講習会では「心の悩みを抱えた人への対応と危機介入について」というテーマで、メンタル不調者への対応、話を聴く際のポイント、危機介入について講演が行われました。

特に今回は「危機介入について」において自殺の問題を取り上げ、「自殺についての基本認識」「自殺者の傾向」「自殺についての誤解」「危機のサイン」「事後の対応」等詳細にわたってお話をいただきました。

講演後はカウンセラーと参加した36

名の学生、教職員で質疑応答を行いました。

講習会終了後のアンケートには、「不登校学生への具体的な対処方法について話してほしい」、「メンタル不調者が出すサインの事例を上げてほしい」、「自殺というテーマには『ドキッ』とさせられたが、無断欠勤だけで自殺への入り口になるとは、初めて知ったこともあり、大変良かった」等の意見や感想が多数寄せられました。

工学部では、寄せられたアンケートのご意見等を参考として、今後も心のケアに関する講習会を開催していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部）



講演する石原カウンセラー



講演後の質疑応答

## 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催

1月10日（金）、農学部大講堂で農学院第28回留学生主催の新年会を開催しました。今年は6ヶ国（中国、韓国、インドネシア、タイ、ミャンマー、ベトナム）の料理が総勢81名により用意され、教職員・学生を含め287名が参加しました。

会の後半には韓国の歌と踊り、4名の女子学生によるタイの民族舞踊、ミャンマーとインドネシアの歌、中国人学生による太極拳の演舞、ロボットダンス、民族舞踊などのパフォーマンスが一気に演じられました。今回は、日本人学生の出演も募り、トリには日

本人学生を代表して北海道大学“縁”メンバー6名による“YOSAKOIソーラン”が披露され、盛会のうちに終了しました。

（農学院・農学研究院・農学部）



インドネシアの歌



タイの民族舞踊



ミャンマーの歌



韓国の踊り



中国の民族舞踊



北海道大学“縁”の踊り

## 附属図書館「海外出張報告会」を開催

附属図書館では、1月24日（金）、本学及び道内国立大学図書系事務職員等を対象として「海外出張報告会」を附属図書館大会議室で開催し、本学教員、附属図書館事務職員及び他大学図書系事務職員等約40名が参加しました。

この報告会は、図書業務に関する海外出張等を行った附属図書館事務職員が、当該出張等により得られた、図書館として今後取り組むべき課題や最新情報について発表を行い、情報の共有化を図ることを目的として、昨年度に引き続き開催したものです。

当日は望月恒子附属図書館副館長からの挨拶の後、最初に佐々木翼学術システム課事務職員から、新渡戸カレッジ事業実施に係る参考調査のため訪問した、米国マサチューセッツ大学アマースト校等の大学図書館における学習支援サービス等について報告が行わ

れました。次いで、千葉浩之利用支援課事務職員から、フィンランドの各大学図書館及び公共図書館における先進的な学習支援や利用者サービス等について報告が行われました。この訪問は国立大学図書館協会海外派遣事業により実現したものです。最後に、三隅健一学術システム課事務職員から、昨年11月ドイツで開催されたベルリンオープンアクセス会議における審議・報告事項として機関リポジトリやオープン

アクセスに関する海外での最新動向について報告が行われました。これは国立情報学研究所からの依頼により参加したものです。

報告の後に行われた質疑応答の際には、海外での先進的な図書館運営等に関する参加者からの熱心な質問が数多く寄せられ、大変有意義な報告会となりました。

（附属図書館）



職員による報告の様子



質疑応答の様子

# 小学生が真冬の森の遊びを満喫!

## — 雨龍研究林で「森のたんけん隊2014冬」を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、冬休み中の小学生を対象とした恒例の「森のたんけん隊2014冬」を1月9日(木)・10日(金)に雨龍研究林(雨竜郡幌加内町母子里)で開催しました。

森のたんけん隊は、名寄市北国博物館並びに幌加内町教育委員会と共同で開催する宿泊体験型野外教育プログラムで、本学研究林のフィールドや施設を利用して、子どもたちが楽しく遊びながら自然の営みや森と人間とのかかわりを学ぶことによって、健やかで個性豊かな人格形成と地域交流を促進するための地域連携社会教育事業です。今年の森のたんけん隊には、札幌市や名寄市、幌加内町から総勢17名の元気な小学生が集まり、大学院生たちがボランティアとして運営をサポートしてくれました。このほか、前年に参加した中学生もジュニアスタッフとして活動を支えてくれました。

初日は厳しい寒さにも負けず、子どもたちは初めてカンジキを履いたとは思えないほど元気いっぱい雪の上を駆け回り、森の中に取り付けられたクイズを解きながら樹木の名前を覚えたり、方位磁石の使い方や雪の温度の計り方、さらには大きな木の肌に触れながら太さや高さの測り方を学びました。休憩の後は、雪原で焚き火をしながらイグルーとスノーランタン作りに挑みました。イグルー作りでは、雪のブロックを運ぶ係、ノコギリで形を整える係、そしてそれを積み上げる係など、みんなで協力して作業しました。



森の木に取り付けられたクイズを解きながら木の特徴を調べる。葉っぱの先がとがっていたらアカエゾマツだ。

また出来上がったランタンにキャンドルを灯して幻想的な光の世界を楽しみました。宿舎に戻って夕食を食べた後はペットボトルを使ったアイスクリーム作りに挑戦しました。チョコレート、抹茶、ジャムなど10種類のメニューの中から何を選ぶかあれこれ迷いましたが、入浴後に食べたアイスはどれもとてもおいしく、子どもたちの笑顔があふれました。



樹高計を使って樹木の身体測定に挑戦。雪の深さも忘れずに加えよう。



アイスクリーム作りでは、牛乳に生クリームと砂糖を加え、好みの味付けをしたあと、食塩を混ぜた雪と一緒にひたすら振り続けた。

2日目は雪上車に乗って森の奥地へ移動し、前日に学んだ様々な森の情報を思い出しながら、方位磁石や巻尺などの七つ道具を使い、巻物の指示を読み解きながら雪の中に埋められた宝箱を探しました。深い雪の中から無事に宝箱を掘り当てた瞬間には、森の中に歓声がこだましました。お昼は雪原で



巻物と七つ道具を持って宝探し。前日に学んだ森の情報を手がかりに、協力しながら森の中に埋められた宝箱をゲット。



雪原でのパーティの後は、スノーモービルに乗り風を切って真冬の屋外を走り抜けた。

バーベキューを堪能した後、スノーモービルに乗って真っ白な雪原を駆け巡りました。最後に、「森のたんけん博士」の認定状を記念に受け取り、2日間の真冬の遊びを締めくくりました。

天候にも恵まれて、参加した子どもたちは体と心で自然や友達との対話を楽しみ、ちょっぴり遅くなって家に帰りました。「森の中でクイズを探しながら歩くのはとても楽しかった」、「新しい友達がいっぱいできた」、「宝箱を掘り当てられてよかった」、「スノーモービルにいっぱい乗れた」、「来年はジュニアスタッフとして参加したい」などの感想が寄せられ、年末から準備作業に携わった職員の苦労も吹き飛びました。森のたんけん隊での経験を糧として、自然観察の面白さを学び、友達との交流が今後も広がっていくことを願いながら、今年の森のたんけん隊が終了しました。

(北方生物圏フィールド科学センター)

## ■お知らせ

# 過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定いたしました。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分		過半数代表候補者		
教 員	文系	（文学研究科）	長谷川 貴彦	
	理系	理学研究院	（理学研究院）	羽 部 朝 男
		工学研究院・情報科学研究科	（工学研究院）	深 澤 達 矢
		上記以外の理系	（農学研究院）	東 山 寛
	医系	（歯学研究科）	井 上 貴一朗	
附置研究所・全国共同利用施設系	（低温科学研究所）	田 中 秀 和		
事 務 系 職 員		（総務企画部）	三分一 利 恵	
		（施設部）	細 川 雅 之	
技 術 系 職 員		（北方生物圏フィールド科学センター）	市 川 一	
特任教員・契約・短時間勤務・嘱託職員		（研究推進部）	村 上 毅	
		（附属図書館）	山 田 勉	

## ■同窓会との交流

### 恵迪寮同窓会「新年寮歌歌始めの会」



出席者有志で京都大学（第三高等学校）寮歌を歌う



鏡開きをする各氏

1月25日（土）、恵迪寮OBから現役寮生まで約80名の参加者が集い、恵迪寮同窓会「新年寮歌歌始めの会」が札幌市中央区の「氷雪の門」で開催され、本学からは山口佳三総長、三上 隆理事・副学長が出席しました。

最初に、恵迪寮同窓会北海道支部総会が行われ、平成26年度事業のひとつとして「北海道大学ホームカミングデー2014」に協力することなどが承認された後、第2部の「新年寮歌歌始めの会」となり、横山 清恵迪寮同窓会長から年頭の挨拶があり、次いで来賓を代表して山口総長が祝辞を述べました。

この後“恵迪寮魂”の拠り所「都ぞ弥生」を全員で斉唱し、横山会長、山口総長、三上理事・副学長らによる威勢の良い鏡開きの後、三上理事・副学長による乾杯の発声がありました。

暫しの懇談をはさんで、百十数曲になる寮歌の放歌高唱が始まり、入寮年次別に登壇して、現役寮生と共に延べ二十数曲の寮歌が披露されました。会の途中には、山口総長の出身である京

都大学（第三高等学校）寮歌「琵琶湖周航の歌」を山口総長や横山会長など、多くの出席者で歌い会場を大いに沸かせました。長く歌い継がれてきた明治、大正、昭和の名寮歌のほか、平成25年に作られた、新々寮30周年記念寮歌「北溟（きた）の我らぞ」も作詞・作曲者が登壇して披露されました。

寮歌高唱の最後には、参加者全員が会場いっぱい大きな人の輪を作り、札幌農学校校歌「永遠の幸」を高唱しました。続いて“札幌農学校は蝦夷が島〜”で始まる「ストームの歌」が始まり、“コチャエ、コチャエ”のかけ声と共にステップを踏むシーンも見られました。

約3時間にも及んだ会では、会場のあちこちでお酒を酌み交わしながら談笑するOBと現役寮生の交流風景が見られ、最後に、9月27日（土）の「北海道大学ホームカミングデー2014」での再会を誓い合い、盛会のうちに終了しました。

（総務企画部広報課）



乾杯の挨拶をする三上理事・副学長



新年の挨拶をする横山会長



来賓の挨拶をする山口総長

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成26年1月14日）

議案・教育研究支援業務総長表彰制度について

協議事項・ASEAN地域と北海道地域との架け橋となる人材育成に向けた取組に関する覚書の締結について

- ・専門職大学院における成績優秀者に対する入学科・授業料免除措置の継続について
- ・北海道大学フロンティア奨学金の見直しについて
- ・中期目標の変更（スラブ研究センターの名称変更）について
- ・中期計画の変更（国立大学の機能強化分）について
- ・平成26年度年度計画の主な事項について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・平成24年度における国立大学法人及び大学共同利用機関法人の業務の実績に関する評価の結果についての意見について

- ・超過勤務実績について
  - ・平成26年度予算（予定額）について
- 

### 経営協議会（平成26年1月21日）

議題・北海道大学フロンティア奨学金の見直しについて

- ・中期計画の変更（国立大学機能強化等）について
- ・平成26年度年度計画の主な事項について
- ・規程の改正について

報告事項・北海道大学の研究戦略について

- ・職員の給与について
  - ・平成25年度補正予算（第1号）案等について
  - ・平成26年度予算（予定額）について
  - ・公的研究費等の不適切な経理処理に係る調査状況等について
- 

### 教育研究評議会（平成26年1月22日）

議題・ASEAN地域と北海道地域との架け橋となる人材育成に向けた取組に関する覚書の締結について

- ・専門職大学院における成績優秀者に対する入学科・授業料免除措置の継続について
- ・北海道大学フロンティア奨学金の見直しについて
- ・中期目標の変更（スラブ研究センターの名称変更）について
- ・中期計画の変更（国立大学機能強化等）について
- ・次世代大学力強化推進会議及び大学力強化推進本部の設置について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・平成24年度における国立大学法人及び大学共同利用機関法人の業務の実績に関する評価の結果への意見について

- ・大学間交流協定の新規締結について
  - ・ミッションの再定義（医学分野・工学分野）の公表について
  - ・全学運用教員の中間評価の報告について
  - ・第9回北海道大学・九州大学合同活動報告会について
  - ・寄附講座の設置について
  - ・平成26年度予算（予定額）について
  - ・平成25年度補正予算（第1号）案等について
- 

### 役員会（平成26年1月24日）

議案・ASEAN地域と北海道地域との架け橋となる人材育成に向けた取組に関する覚書の締結について

- ・専門職大学院における成績優秀者に対する入学科・授業料免除措置の継続について
- ・北海道大学フロンティア奨学金の見直しについて
- ・中期目標の変更（スラブ研究センターの名称変更）について
- ・中期計画の変更（国立大学機能強化等）について
- ・次世代大学力強化推進会議及び大学力強化推進本部の設置について
- ・諸規則の制定及び一部改正について
- ・日本学生支援機構札幌国際交流会館の借り上げについて

協議事項・早期退職制度について

- ・就業規則関連規程の一部改正について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

## ■ 学内規程

---

### 北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年1月27日海大達第13号)

本年1月1日付けで医学研究科医学専攻に寄附講座を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。(平成26年1月1日適用)

---

### 国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成26年2月1日海大達第14号)

### 国立大学法人北海道大学次世代大学力強化推進会議規程

(平成26年2月1日海大達第15号)

### 国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第16号)

### 国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程

(平成26年2月1日海大達第18号)

### 国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第19号)

### 国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第21号)

### 国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第22号)

### 国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第23号)

### 国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第24号)

### 国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第25号)

### 国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第26号)

平成26年2月1日付けで、本学の運営組織として次世代大学力強化推進会議及び大学力強化推進本部を設置することに伴い、所要の定め及び改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第17号)

### 国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第27号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加及び使用料金の変更を行うこと、並びに創成研究機構共用機器管理センターにおいて材料分析又は加工に使用する設備を追加することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年2月1日海大達第20号)

遺伝子病制御研究所の所長付に採用する准教授及び講師について、大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号の規定に基づき任期を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## ■ 研修

研修名：平成25年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

開催期間：平成26年1月23日～平成26年1月24日

開催場所：百年記念会館大会議室

研修目的：会計事務に従事する職員に、実務に必要な本学の会計制度及び会計業務実施基準等に関する基本的知識を付与することを目的とする。



研修の様子（会計職員の心構えについて）



グループ演習（調達事務手続きについて）

(財務部主計課)



## 表敬訪問

### 国内

年月日	来訪者
26.1.16	北海道情報大学 理事長 松尾 泰 氏, 常務理事・法人本部長 中居 聡士 氏, 理事・事務局長 近藤 始 氏
26.1.20	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 副理事長 倉田 健児 氏



北海道情報大学 理事長 松尾 泰 氏(右から2人目),  
常務理事 中居 聡士 氏(左側), 理事・事務局長  
近藤 始 氏(右側)



独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構  
副理事長 倉田 健児 氏(右側)

(総務企画部広報課)

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
26.1.7	タイ王国 地理情報・宇宙技術開発機関 Dr. Pornsook Chongprasith	両国の交流に関する懇談
26.1.20	ブルキナファソ Mme. Joséphine Amédée OUEDRAOGO / BARO 水省衛生総局長	両国の交流に関する懇談
26.1.31	米国 ハワイ州 Shan Tsutsui 副知事	両国の交流に関する懇談



タイ王国 地理情報・宇宙技術開発機関  
Dr. Pornsook Chongprasith (前列中央)



ブルキナファソ Mme. Joséphine Amédée  
OUEDRAOGO / BARO 水省衛生総局長(左側)



米国 ハワイ州 Shan Tsutsui副知事  
(左から4人目)

(国際本部国際連携課)

# ■人事

## 平成26年1月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	董 郁 玉	採用

## 平成26年1月20日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	金 子 琢 也	北海道大学病院看護部看護師

## 平成26年1月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 (辞職)	梶 野 喜 一	人獣共通感染症リサーチセンター准教授
【技術職員等】 (辞職)	那 須 翔 子	北海道大学病院看護部看護師

## 平成26年2月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院歯学研究科教授	吉 田 靖 弘	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科准教授
【准教授】 大学院医学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 低温科学研究所准教授	北 村 信 人 藤 澤 剛 杉 山 慎	大学院医学研究科講師 採用 低温科学研究所講師
【講師】 大学院医学研究科講師 遺伝子病制御研究所講師	谷 野 美智枝 三 浦 恭 子	大学院医学研究科助教 採用
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院理学研究院助教 大学院理学研究院助教 大学院工学研究院助教 北海道大学病院助教 遺伝子病制御研究所助教	河 口 泰 之 馬 上 謙 一 吉 田 紘 行 山 田 悟 史 長 内 俊 也 山 崎 智 弘	採用 採用 採用 採用 採用 採用
【係員】 学務部学生支援課 理学・生命科学事務部事務課 国際本部国際連携課	渡 部 瑞 穂 蝦 名 慧 ハース 千佳子	採用 学務部学生支援課 採用
【技術職員等】 大学院医学研究科附属動物実験施設	大 瀧 越 騎	採用

## 新任教授紹介

平成26年1月16日付



公共政策学連携研究部附属  
公共政策学研究センター教授に

とう いくぎょく  
**董 郁玉 氏**

東アジア研究部門

## 生年月日

昭和37年4月21日

## 最終学歴

北京大学法律系専門修士課程修了（昭和62年7月）

法学修士（北京大学）

## 専門分野

現代中国論

平成26年2月1日付



歯学研究科教授に

よしだ やすひろ  
**吉田 靖弘 氏**

口腔医学専攻口腔健康科学講  
座

## 最終学歴

広島大学歯学部卒業（平成2年3月）

博士（歯学）（広島大学）

## 専門分野

生体材料学， 歯科理工学

## 訃報

名誉教授 伊藤 英治 氏  
(享年88歳)



名誉教授 伊藤英治氏は、平成26年1月15日逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正14年9月9日北海道札幌市に生まれ、昭和22年9月に北海道帝国大学理学部化学科を卒業、大学院特別研究生を経て、同24年11月に北海道大学理学部文部教官に任用されました。昭和28年4月に北海道大学理学部助手、同年12月に同講師、同37年12月同助教授、同39年10月に同教授に昇任

され、化学科生物化学講座を担当されました。平成元年3月停年により退職、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

本学を退職後は、平成元年7月から同6年3月まで函館工業高等専門学校第4代校長として、工業技術者養成のための教育体制、施設、設備の充実と管理運営の改善に尽力され、同6年4月に函館工業高等専門学校名誉教授の称号を授与されました。

研究面においては、生物化学の分野で優れた成果を挙げられました。D-アミノ酸を含むペプチドの合成酵素群の発見、ペニシリンの作用機構の確立、マンノサミン等希少アミノ糖の生成経路と機能の解明、イソプレノール燐酸化合物の構造と機能の解明、細胞表面物質の構造と合成機能の解明、緑膿菌共通抗原の発見等、多くの独創的、先駆的な研究が高く評価され、平成元年2月には北海道科学技術賞を授与され

ています。

学内においては、昭和54年6月から評議員、同56年9月から同60年8月まで北海道大学理学部長として、大学運営の中枢に参画し、多大な貢献をなされました。

学外では、日本生化学会評議員、日本炭水化物研究会理事等を務められ、関係学会の発展に貢献するとともに、昭和56年から同60年まで北海道科学技術審議会委員として北海道の科学技術の発展に寄与されました。

平成10年11月には、これらの優れた研究業績及び大学及び高等専門学校の振興への貢献等の功績により、勲二等旭日重光章を受章されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

名誉教授 山田 尚達 氏  
(享年98歳)



名誉教授 山田尚達氏は、平成26年1月21日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正4年5月8日東京に生まれ、昭和14年3月に東京帝国大学医学部医学科を卒業し、東京帝国大学助手、東京大学講師などを経た後、信州大学教授を経て、同34年7月に北海道大学教授に任ぜられました。それ以来、19年有余の長きにわたり北海道大学医学部小児科学講座を担当されました。北海道大学への着任後はポリオを

中心に、はしかワクチン、風疹ワクチン、種痘などに関する臨床ウイルス学の分野で幾多の指導的研究を行われ、その業績は広く認められております。

学内では医学部生、大学院生の指導、多数の小児科医の育成にご尽力されました。それらの医師達は、広く全国の医育機関、医療機関などにおいて、日夜活躍しておられます。さらに先生は、昭和42年4月から同44年3月まで、北海道大学医学部附属看護学校長となり、同44年11月から同45年4月まで、北海道大学医学部附属病院長事務取扱として当時全ての大学が抱えていた事態の收拾に献身されました。同時に同大学評議員、協議員として本学並びに医学部附属病院の運営にも多大な重責を果たしております。

一方学外では日本小児科学会理事、日本小児保健学会、日本新生児学会などの評議員としてご活躍され、昭和52年第80回日本小児科学会会長、同53年第20回北日本小児科学会会長として学

会を主宰されました。

先生の研究業績は、論文110篇以上、著書13冊のほか指導論文は700篇以上で、いずれも貴重な文献として我が国の小児医学の進歩に寄与しております。

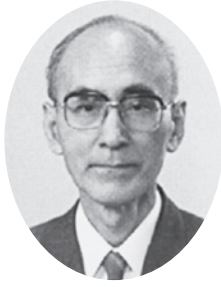
また、昭和54年に本学を定年退職後、北海道大学名誉教授の称号を授与され、さらにはこれら一連の功績が認められ、平成2年春に勲三等旭日中綬章を受章されております。

先生は、本来は東京人でいらっしゃいましたが、北海道大学に任ぜられた以後、北海道を愛し続け、ご夫妻共に今日まで札幌での生活をお続けになりました。私共は皆、先生ご夫妻のお気持ちを大変大切に思い続けております。また、先生は温厚篤実なお人柄と、慎重かつ適正な判断力をお持ちでいらっしゃいました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(医学研究科・医学部)

名誉教授 <sup>やまだ さだいち</sup> 山田 定市 氏  
(享年81歳)



名誉教授 山田定市氏は、平成26年1月21日にご逝去されました。生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和7年7月31日旭川市に生まれ、同30年3月に北海道大学農学部農業経済科を卒業、同36年3月に同大学院農学研究科博士課程を修了、農学博士の学位を授与されました。北海道立農業研究所研究員の勤務を経て、

昭和38年8月に本学農学部助手、同46年4月同教育学部助教授、同57年6月同教授となられ、社会教育学の研究、教育にご尽力されました。昭和62年9月には北海道大学評議員、平成4年4月からは同教育学部長・研究科長として、運営、整備充実に尽力されるとともに、平成7年には同高等教育推進機構生涯学習計画研究部長を務められる等本学運営の枢軸に参加されました。平成8年3月に本学を定年退職し、名誉教授となられた後も、室蘭工業大学教授、北海学園大学大学院経営学研究科長等を務められました。

研究活動としては、農民の主体的活動に視点をあてた独自の農業協同組合学、農産物市場学研究を基礎に、農民教育、社会教育の理論的・実証的研究を進め、生涯学習についても、地域の教育力の体系化を図る地域教育計画に

着目し、生涯学習を地域づくりと関連させて分析し、社会教育及び生涯学習研究に貢献されました。

学外では、日本社会教育学会理事を歴任され、北海道農業経済学会会長、北海道地域リカレント教育推進協議会実行委員会委員長等として活躍されました。

以上のように、先生は社会教育学・生涯学習学、協同組合学、農業市場学の発展に貢献するとともに本学をはじめ勤務した大学の改革、地域住民の生涯学習への参画に多大な貢献をされました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(高等教育推進機構)

名誉教授 <sup>さねかた けんじ</sup> 實方 謙二 氏  
(享年82歳)



名誉教授 實方謙二氏は、平成26年1月23日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和7年11月20日に仙台で生まれ、同37年3月に東京大学大学院法学政治学研究科博士課程を単位修得退学後、小樽商科大学商学部、法政大学法学部を経て、同50年4月に北海道

大学法学部教授に就任されました。それ以降、平成8年3月に停年退職されるまでの21年間、北海道大学法学部と大学院法学研究科で経済法・独占禁止法についての教育と研究に従事し、公正取引委員会の活動を助言する公的な貢献も行いました。その後は、平成8年4月に、神戸学院大学法学部教授に就任され、同16年4月から法科大学院長を務め、同18年3月に退職されました。

先生は、日本の独禁法の母法である米国の反トラスト法の研究に長く従事し、反トラスト法の多数の判決を分析し、最新の経済理論・産業組織論の研究成果も取り入れた多くの論文、著書を昭和40年代より公表し、日本における独占・寡占市場対策を中心とする独禁法の理論の水準を高めました。すな

わち、(1) 独占・高度寡占市場対策としての純粋構造規制、(2) 寡占市場対策としてのカルテル・談合規制、

(3) 寡占市場対策としての流通系列化規制が主たる貢献の領域で、その成果は、経済法学会など当時の若手や中堅の経済法学者に大きな影響を与え、多数の後継者を育成しただけでなく、幾度かの独禁法改正にも大きな影響を与えました。實方先生の独占・寡占市場問題に対する研究範囲の広さと理論構築の緻密さが、こうした課題に応えることを可能にしました。これまでの多大な貢献により、平成25年11月3日に、瑞宝中綬章を受章されました。

ここに謹んで先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

(法学研究科・法学部)

名誉教授 <sup>わたなべ</sup> 渡辺 <sup>かつや</sup> 勝也 氏  
(享年88歳)



本学名誉教授、渡辺勝也先生が平成26年1月29日に逝去された。先生は昭和23年3月北海道大学工学部生産冶金工学科をご卒業、一旦会社に就職されたが、その後母校に戻られ、助手、講師、助教授を経て、昭和41年4月に工学部金属工学第四講座の教授に昇任、本学教官として37年にわたり教育と研究指導に尽力された。平成元年3月に停年により退官されたが、平成2年4

月に北海道工業大学教授に任ぜられ、5年間にわたって教鞭をとられた。この間、先生は材料工学の多方面の分野で数多の業績を挙げられたが、耐熱金属間化合物の材料物性に関する研究において数々の先駆的な成果を発表、今日のこの分野の隆盛と、本邦が国際的に不動の地位を築く基礎を固められたことが特筆されよう。

告別式での先生の遺影を見ながら、今から40年近く前、先生の研究室で過ごした頃の思い出の数々が脳裏をよぎった。今のように装置が整っていたわけではない。学生が国内の学会に行くことすら稀な時代であった。経済的には決して豊かではなかったのに、当時の思い出には北国の遅い春の訪れと共に一斉に咲きだす花々のような温かさがある。夏のゼミ旅行、年末の餅つきと忘年会、冬の離散会のスキー行…

四季折々の美しい風象に研究室の思い出が重なる。渡辺先生は決して一つの指針や方針といったものを強く主張されることなく、私達の自主性を尊重されていたと思う。自主性のない勉強嫌いな学生も、自主性に溢れすぎた生意気な学生も、それぞれを先生は温かく見守って下さっていた。そして、若さゆえの多くの葛藤や失策を、先生はおおらかに受け入れてくださった。三大寮歌の一つ、我「都ぞ弥生」には人間臭がない。あるのはひたすら北国の自然の美しさである。それが人を育てる。渡辺先生は無言の内にそのような教育を実行されていたのかも知れない。先生の御冥福を祈るばかりである。(卒業生)

(工学院・工学研究院・工学部)

## 編集メモ

●水産学部附属練習船おしよろ丸は、現在新船の建造が進められています。第Ⅳ代おしよろ丸である現船が今年度最後の航海を控え、2月20日（木）に函館港に帰港しました。

●第Ⅳ代おしよろ丸は昭和58年12月に竣工し、以降本学における海洋教育・研究にとどまらず、数々の大規模研究事業や社会貢献活動を実施してきました。文部科学省「GRENE北極気候変動研究事業」における北極海での航海調査や、東日本大震災により被災し共同実習船を失った岩手県の宮古水産高校の乗船実習代行は記憶に新しいところです。

●今年度締めくくりの航海にふさわ

しい晴天の中、船員たちは普段通りと思われる様子で準備を進めていました。2月28日（金）までの今回の航海では、津軽海峡周辺のホッケ稚魚の生息調査を行い、帰港後は更にいくつかの航海をこなした後、新船の建造地である岡山県玉野市に向かうとのことです。



出港準備の様子



2012. 2. 27 釧網本線 遠矢～釧路湿原（釧路町）

## 北の鉄道風景 11 SL冬の湿原号

現在、JR北海道では2両のC11型蒸気機関車（C11型171号機と207号機）が動態保存されており、それらは観光列車の運行に充当されている。171号機は1975年の廃車後、標茶町で保存展示されていたが、1999年に動態復元された。その直後の2000年、171号機の標茶町への里帰りといった主旨で、釧網本線の釧路～標茶で冬期間限定の観光列車「SL冬の湿原号」の運行が始まり、今冬（2014年）で運行15年目を迎

えようとしている。2001年からは、171号機に加えて、静内町で保存展示後に動態復元された207号機が「SL冬の湿原号」の運行に充当され始めた。基本的には2両のうち何れか一方が牽引を担当するが、写真のように2両で牽引する場合もある（これを重連運転という）。

情報科学研究科 准教授 山本 学

### 北大時報 ② No.719 平成26年2月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html